

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

| | | | | | | | |
|------|----------------------------------|-----|---|-----|----------|------|-----------|
| 依頼№ | 2 | 事例№ | 2 | 依頼者 | 一宮市環境保全課 | 実施場所 | エコハウス 138 |
| 実施対象 | 公募により募集した一宮市内在住の一般市民 18名 | | | | | | |
| 実施日時 | 令和元年5月11日（土）13時30分～15時30分（2時間） | | | | | | |
| テーマ | オランウータンからの手紙 ～生き物が生きる土台である環境を学ぶ～ | | | | | | |

●依頼内容

平成31年度（令和元年）に実施予定の環境学習講座の内容と講師の紹介（年間4回開催予定のうち、2回分についての依頼）を希望。次世代を担う人材の育成をテーマにワークショップ等による講座の開催を検討している。開催場所は市内の環境学習施設（エコハウス138）を予定。

●講師：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢氏

伊沢氏は、1997年に名古屋でNIED・国際理解教育センターを設立し、人権、環境、平和などをテーマとして、持続可能な社会を築くためのワークショップを自治体職員、NGOスタッフ、ボランティアなどを対象に年間100回ほど企画・運営されている。ワークショップ等参加型の講座開催の実績が多くあり、今回の講師として適任である。

●講座の内容

| | | | |
|--------------|------------------|--|-----|
| ワークショップ形式の講座 | 講座の導入段階 | はじめに、講師の自己紹介及びワークショップ（WS）形式による講座の進め方に関してガイダンスが行われた。その後、参加者に質問を投げかけ数種類のアイスブレイクを実施した後にグループ作りを行い、ワークショップが開始された。 | 40分 |
| | 生態系のつながりアクティビティ | 知らない人同士によるグループでWSがスタート。再度、自己紹介を兼ねて、私のいいところ、楽しみ等を紹介しながらお互いに多角的に知り合い、討議の素地が作られた。動植物（ミミズ、キツネ、リス、どんぐり等）カードを元に、生態系のつながりを整理しながら確認した。 | |
| | 環境問題と自分とのつながりを確認 | 地球環境問題に関するクイズにグループで協力して答えることで、問題の現状を把握した。さらに、本題である絶滅危惧種「オランウータンからの手紙」を読み、熱帯雨林開発の現状と問題点について知り、環境問題を身近な問題としてとらえながら検討するための準備が行われた。 | 80分 |
| | 問題解決の手立てについての討議 | 終盤の討議では、オランウータンの保護と持続可能なパーム油生産をテーマに、参加者がパーム畑開発を巡る様々な利害関係者になって主張しあうロールプレイにより議論が進められた。最後は役を離れ、私たちにできることは何かについて討議と発表を行い講座のまとめが行われた。 | |

●講座の様子

参加者は、最初は知り合い同士で着席していましたが、講師のアイスブレイクにより新しいグループに自然と再構成され、ワークショップがスタートしました。講師の巧みな進行により、初対面の人たちでも違和感なく討議が進められました。途中途中で意見がコンパクトにまとめられてホワイトボードにメモされ、参加者の理解を深めていました。オランウータンからの手紙と題する講座では、参加者が利害関係者の立場から発言するロールプレイングを実施し、熱帯雨林の開発という問題の解決策について真剣に議論が行われていました。

「ワークショップ」の手順の説明



ワークショップの様子

